２０１６年3月　改訂
マガジンハウス
広告原稿のデータ入稿に関する規則

Ver. 12.　0

本規則書は弊社へご入稿いただくデータ原稿の取り扱い方法をオンライン送稿に対応させるために、雑誌広告デジタル送稿推進協議会が策定した制作規則（制作ガイド）と運用方法（運用ガイド）に合わせて規定したものです。

また、今回の改訂は雑誌広告デジタル送稿推進協議会が２０１６年２月に「制作アプリケーションとアクロバットの運用バージョンの変更」を決定しましたので、その運用に合せて２０１６年８月１日（月）送稿分から改訂実施致します。

業界全体の送稿フローが、２０１４年４月１日付けにてオンラインによる入稿に一本化されましたので、弊社もこれに従いオンライン送稿に限定して原稿受付を行っております。メディアによるオフライン入稿はお取り扱いしておりませんのでご注意下さい。尚、オンライン送稿に関する詳細は弊社・メディア進行部までお問合せ下さい。

本規則書のデータ制作に関する規定は、雑誌広告デジタル送稿推進協議会の制作規則と運用方法を遵守するとともに、大手印刷会社各社に協力を仰ぎ、オンライン送稿に適した共通の規則として決定したものです。印刷作業の安全性を確保し、効率化をはかるためにも、この制作規定とワークフローを遵守下さいますようお願い致します。

データ入稿仕様書につきましては、雑誌広告デジタル送稿推進協議会発行の「JMPAカラー準拠PDF仕様書 201602C（2016.2 改定）」と「モノクロ（グレースケール）PDF仕様書 201602M（2016.2 改定）」を必ずご使用下さい。プリフライト・レポートは、データ原稿の信頼性を保証するものなので、必ず添付（データ同梱）して下さい。

尚、デジタルセンド社のオンライン送稿サービスを利用して入稿される場合は、プリフライト・レポート及び仕様書は不要となります。

２０１６．３．１

株式会社　マガジンハウス
広告局　　メディア進行部

広告原稿のデータ入稿に関する規則

1. オンライン送稿について

- ２014年4月1日より「完全オンライン送稿」を実施しております。
- 弊社へのオンラインによる送稿は、デジタルセンド社が運営するオンライン送稿サービスもしくは、弊社が指定する通信会社（日本ワムネット社）のシステムを利用したものに限定致します。
- ストレージ・サービス（有料・無料問わず）を利用したものやメールに添付する等の送信方法では、原稿自体の信頼性や送信の安全性・確実性が確保されませんのでお取り扱いを致しません。
- オンラインによる送稿方法については、弊社・メディア進行部へご相談下さい。
- オフライン（メディアによる）入稿は、２014年3月末日をもって受付を中止致しました。

2. データ入稿に必要な ３点セット

a）データ

- ご入稿いただけるデータ原稿は、2016年2月に改訂になりました新しいプリフライト・プロファイル（201602C、201602M)によって安全確認された「JMPAカラー準拠PDF」と「モノクロ（グレースケール）PDF 」の2種類のPDF原稿に限定させていただきます。
- 尚、「JMPAカラー準拠PDF」 と「モノクロ（グレースケール）PDF」に関する制作規定は、雑誌広告デジタル送稿推進協議会が策定した制作ルール・デジタル制作ガイド・仕様書に準拠します。
- **雑誌広告デジタル送稿推進協議会発行の最新版仕様書に記載されていないアプリケーションやバージョンは、いっさいご使用になれませんのでご注意下さい。**
- 仕様書はデータ原稿を安全に印刷するための情報伝達手段ですから、実際と異なる事項を記入することや改ざん、項目を書き加えたりすることは絶対にお止め下さい。
- 原稿1点あたりのデータ量は、600MB以下にして下さい。
- データの制作に際しては、雑誌広告デジタル送稿推進協議会発行の「JMPAカラー準拠PDF仕様書　201602C」と「モノクロ（グレースケール）PDF仕様書 201602M」に記載されているアプリケーション並びにバージョンに準拠します。規定外のアプリケーションやバージョンを使用したデータは入稿できません。
- 使用できるアプリケーションは日本語版に限ります。海外版使用についての責

任は負いません。

- **2012年10月に実施した制作ルールの改訂でウインドウズによる制作が解禁されましたが、原稿の安全性を確保するために入稿データの出力見本で、絵柄・ロゴの配置や文字のツメ幅等に齟齬がないことを必ずご確認下さい。**

b）データ入稿仕様書

- 雑誌広告デジタル送稿推進協議会が発行する「JMPAカラー準拠PDF仕様書」と「モノクロ（グレースケール）PDF仕様書」の最新版を制作環境に合わせてお使い下さい。最新版は雑誌広告デジタル送稿推進協議会のホームページ「雑誌広告デジ送ナビ」にありますので、ダウンロードしてご使用下さい。（http://www.3djma.jp/index.html）
- 所定の入稿仕様書以外でのご入稿はお断りしておりますのでご注意下さい。
- 仕様書には、OSや使用アプリケーション、バージョン等の制作環境をもれなく記入して下さい。但し、使用できるアプリケーションは日本語版に限ります。海外版使用についての責任は負いません。
- 仕様書はデータ原稿を安全に印刷するための情報伝達手段ですから、実際と異なる事項を記入することや改ざん、項目を書き加えたりすることは絶対にお止め下さい。
- 制作者の連絡先はデータの不備等技術的な問題が生じた時に、連絡を取らせていただくためのものです。データを制作された方（ご本人）の連絡先を必ず記入して下さい。
- 必要事項の記入を終えた仕様書は、PDFデータにして原稿データと同じフォルダに同梱して下さいますようお願い致します。
- **デジタルセンド社のオンライン送稿サービスを利用して入稿される場合は、メタデータが原稿データに埋め込まれますので、仕様書は不要です。**
- **これとは別に、弊社が指定するオンライン送稿システムを利用される場合は、所定のPDF仕様書（データ）とプリフライト・レポート（PDFデータ）が必要となります。**

c）プリフライト・レポート（PDFデータ）

- 「JMPAカラー準拠PDF」「モノクロ（グレースケール）PDF」原稿は、プリフライト・レポートをPDFデータにして原稿データに添付する必要があります。プリフライト・レポートの作成手順（規定）と添付方法の詳細についはそれぞれの制作規定をご覧下さい。
- 「JMPAカラー準拠PDF」は、プリフライト・レポートによる確認の他に、アドビ・アクロバット・プロフェッショナルの出力プレビュー機能を使って、TAC値（総網点量）とオーバープリントの確認を必ず実施して下さい。TAC値が320%を越

えると不備原稿になりますのでご注意下さい。

- アクロバット・プロフェッショナルの新しいプリフライト・プロファイルは、TAC値の検出機能を実装しております。プリフライト・チェックでTAC値オーバーの警告がないものは規定値内と考えられますが、お使いのパソコンのパフォーマンスによっては検出に時間がかかることや正しい結果を得られない場合がありますので、念のための措置として出力プレビュー機能を使った確認作業を必ず実施して下さい。
- プリフライト・レポート（PDFデータ）を原稿データに同梱していないものは、原稿の安全性が保証されておりませんので入稿できません。
- 最新のプリフライト用の設定ファイルは、雑誌広告デジタル送稿推進協議会のホームページ「雑誌広告デジ送ナビ」にありますのでダウンロードしてご使用下さい。（http://www.3djma.jp/index.html）
- プリフライト用設定ファイルのダウンロードと設定方法は、弊社ホームページ・アド・サーバーの「J－PDF 原稿の制作方法/プリフライト・プロファイルの設定から」にありますのでご覧下さい。
- 原稿内容が確認されていない原稿は、いかなる場合も入稿できませんので、ご注意下さい。
- **デジタルセンド社のオンライン送稿サービスを利用して入稿される場合は、プリフライト・チェック「OK」の情報がメタデータに付加され原稿データに埋め込まれますのでプリフライト・レポートは不要です。**
- **これとは別に、弊社が指定するオンライン送稿システムを利用される場合は、プリフライト・レポート（PDF データ）が必要となります。**

上記の3点が完全にそろっていないと、広告原稿をお受けすることはできませんのでご注意下さい。

d）出力見本

- **オンライン送稿される場合は、出力見本の添付は不要です。**

e）色見本

- 全てJMPAカラーに準拠したデータとなりますので色見本は不要です。入稿前に必ずJMPAカラー準拠のデジタル・プルーフで色調をご確認下さい。
- 雑誌広告デジタル送稿推進協議会では、2013年12月末日をもって色見本運用完全廃止を宣言しております。

3. 入稿 校了日 オンライン送稿 J-PDF 校了日【締切日 / 時間】

- 「JMPAカラー準拠PDF」「モノクロ（グレースケール）PDF」ともに入稿校了となりますので、所定の校了日【締切日 / 時間】までにご入稿下さい。
- 入稿 校了日 オンライン送稿 J－PDF 校了日【締切日 / 時間】は雑誌によって異なりますが、発売日の9～14日前になっております。全誌ぎりぎりの日程で作業しておりますので、いかなる理由であっても、入稿 校了日【締切日 / 時間】を先に延ばすようなことはできません。原稿の進行管理にはくれぐれもご注意下さい。
- オンライン送稿において、所定の入稿 校了日【締切日 / 時間】に原稿が届かない場合は、弊社が用意する代替原稿にて対応致しますが、事後の対応については先例（TV メディア）にならって処理致します。

4. データ制作における注意事項

a）寸法

- データは原寸で作成して下さい。
- 断ち落としの画像・イラスト・罫線・平網等は、必ず版面サイズ（外トンボ）まで作成して下さい。
- 文字・ロゴ・絵柄等が製本（断裁）時に切れてしまうことの無いように、仕上りサイズよりも天地は10mm、左右は10～15mm以上内側にレイアウトして下さい。表4原稿は、天地左右ともに3mm以上内側にレイアウトして下さい。
- **文字・ロゴ・絵柄等が切れてしまうような場合でも制作側の意図として、そのまま校了・印刷致しますのでご注意下さい。**

b）カラー

- カラーは、必ず印刷用のYMCK（イエロー・マゼンタ・シアン・ブラック）のプロセスカラーをご使用下さい。
- RGB（レッド・グリーン・ブルー）やインデックスカラー、カスタムカラー（特色）、スポットカラー（特色扱い）は使用できません。
- **4色掛け合せ部分（含画像）が、YMCK4版の合計で320%を超えると、印刷トラブル（ブロッキング）やシャドウ（スミ）部分の階調不良となります。こうした原稿は全て不備データとなりご返却することになりますので、くれぐれも規定の数値を超えることのないようご注意下さい。**
- **また、デジタルセンド社のオンライン送稿サービスを利用して入稿される場合は、規定値を超えるとプリフライト・チェックを通りません。**
- 10%に満たない色指定（含画像）は、たとえ出力見本や色見本、校正用のデジタル・プルーフで発色していても、本機印刷の際に色飛びやムラが生じることがありますので、避けるようにして下さい。こうしたデータについては品質保証

をすることができませんのでご注意下さい。

- スミベタ文字やスミベタ罫線は、ヌキ合せではなく全てノセ（オーバープリント）にして下さい。
- 塗り色はすべてヌキ合せにして下さい。デザイン上どうしてもノセにする場合は、［透明効果］の［乗算］をお使い下さい。
- 白ヌキ部分にノセ（オーバープリント）の指示を入れたままにすると、データ通りの作業を致しますので、ヌキ部分が表現されません。例えお手元の出力見本・プリントアウト等でヌキ部分が表現されていても、データ優先のお取扱いを致しますのでくれぐれもご注意下さい。
- **デジタルセンド社のオンライン送稿サービスを利用して入稿される場合は、制作規定（制作ガイド）通りにオーバー・プリントの指定をしていないと、プリフライト・チェックで「NG」となり入稿することができません。**

c）フォント

- フォントはエンベットせず、全てアウトライン化して下さい。フォントデータを含む孤立点等は、原稿に入れないようにご注意下さい。

d）製版

- ヌキ文字はツブレ防止のために、8.5 ポイント（＝１２級）以上にして下さい。これに満たないものは、品質保証をすることができません。
- 8.5 ポイント未満の文字や罫線に3色以上の掛け合わせを行うことは、本機印刷時の見当合わせが困難になり版ズレを起こす原因となりますので、避けて下さい。
- 罫線類の線幅は、かすれなど線切れを起す可能性があるため、0.3 ポイント（0.1mm）以上にして下さい。ヘアラインは使用できません。
- 「JMPAカラー準拠PDF」原稿で囲み罫の類に破線等を使うと、まれに印刷機のRIPにより破線の間隔や位置が作成時のものと異なることがあります。これはPDFとRIPの仕様に起因し、アトランダムに発生するため完全に防ぐことはできません。この現象で破線等に差異が出ることは、免責事項としてご了承下さいますようお願い致します。回避策としては、破線等もアウトライン化することが考えられます。
- １０％未満の平アミ（色指定）は、本機印刷時に正確に再現されないことがありますのでご注意下さい。

e）画像

- 画像データの解像度が低いと印刷した際に品質劣化の原因になります。 適正解像度の目安は175線出力の場合、画像では雑誌誌面の使用実寸で、 350

pixels/inch（許容範囲は±５０pixels/inch）、ロゴ等版下素材では使用実寸で、１,２００pixels/inch、画面キャプチャでは、７２pixels/inch になります。

- 適正解像度を大幅に上回ると、最終的な品質向上よりも（データを開くのに時間がかかる等）作業上のロスが生じることの方が多くなりますので、適正解像度をお守り下さい。
- 画像の大幅な拡大や縮小は、画像の劣化につながりますので、必ず雑誌誌面の使用実寸（許容範囲は±１０％）で配置して下さい。
- 画像をトリミング使用する場合は、未使用部分が大きいと作業にロスが出ますので、できる限り必要な部分のみ切り取って、実寸で使用して下さい。

f）出力見本

- **オンライン送稿で入稿される場合は、出力見本の添付は不要です。**

g）データ保存

- 必ず複製データで入稿し、オリジナルデータはお手元に保管して下さい。
- 「JMPAカラー準拠PDF」原稿は、制作規定に準拠したものを雑誌広告デジタル送稿推進協議会が策定した方法で従来同様「雑誌広告送稿用 201602C」のPDFに書き出して下さい。それ以外の形式のPDFでは事故につながりますので、入稿受付を致しません。
- 【Adobe PDF プリセット】は２０１６年２月更新されました「雑誌広告送稿用_201602」をお使い下さい。それ以外のプリセットでは不備データとなります。

h）その他

- ハガキや片観音等の貼り込み部分は、本誌広告ページとは別作業になりますので、それぞれを別原稿としてデータ入稿して下さい。
- 両観音広告など特殊広告は、折りトンボの設定など現在のＪ－PDF原稿の制作規定では作成が難しい部分がありますので、制作に取り掛かる前に必ず弊社・メディア進行部へご相談下さい。
- **特別な体裁の広告は、デジタルセンド社のオンライン送稿サービスを利用した入稿はできません。**

5. 校了について

- 弊社媒体の広告ページの色調は、すべて業界標準であるJMPAカラー基準で管理していますので色見本は不要です。
- 校了紙は、全て印刷会社で出力したJMPAカラー準拠デジタル・プルーフになります。
- 全て規定のPDF原稿でご入稿いただきますので、印刷会社ではデータの修正

や変更を行うことができません。

- 従来のアナログ作業とまったく同じ注意事項ですが、色指定が10%に満たない絵柄（含画像）は、たとえJMPAカラー準拠デジタル・プルーフにおいて発色していても、本機印刷では印刷されないことがあります。

6. 流用の廃止と原稿返却について

- データそのものを他誌または次号等へ流用することは、トラブルの原因となりますので行いません。必ず媒体・発売号ごとにデータ入稿して下さい。
- オンライン送稿により入稿されたデータは、印刷会社で使用後に全て処分（消去）致します。印刷会社にてデータを保存・管理することはありません。

7. その他

- **ご入稿は、修正を終えた校了段階のデータ（完全原稿）を規定のPDFに書き出したものでお願い致します。**その際に、お手元の出力見本・プリントアウトにて文字化けや指定間違い等のないことを必ずお確かめ下さい。
- 弊社媒体の広告ページの色調は、全て業界標準であるJMPAカラー基準で管理しています。たとえ同一データであっても、他のカラー・プロファイルで出力したデジタル・プルーフは色調が異なりますのでご注意下さい。
- 同一データをご入稿いただいたとしても、印刷面付の違いや印刷機、インキ、用紙、天候等の状況によって印刷の仕上りが異なる場合がありますので、ご了承下さい。
- **弊社へのデータ入稿にあたっては、本規則書にある制作規定とワークフローを理解し、履行することを会社として受諾したものとさせていただきます。**
- **この規則書を遵守いただけない場合は、当該の広告会社からの入稿をいっさい受付けません。**

データ入稿に関する規則は、予告なく変更（改訂）することがありますが、印刷作業の安全性の確保と向上を目的として行うものですから、何卒ご了承下さい。皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

《ご案内》
雑誌広告デジタル送稿推進協議会が策定した制作ガイド及び仕様書は、下記のホームページからダウンロードしてご使用下さい。

雑誌広告デジタル送稿推進協議会
「雑誌広告デジ送ナビ」 http://www.3djma.jp/index.html
日本雑誌協会 http://www.j-magazine.or.jp

日本雑誌広告協会　http://zakko.or.jp/jpn/
広告業協会　http://www.jaaa.ne.jp/
マガジンハウス　http://ad.magazine.co.jp